

事業所名 グループホーム 笠岡市炉端の家

日付 平成17年3月31日
 特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会
 LIFE SUPPORT推進グループ
 評価調査員 在宅介護経験8年
 評価調査員 在宅介護経験8年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

リフトを使用して車椅子に移乗する さんの部屋のカレンダーには、几帳面だったこの人の気持ちを受け継ぐ担当職員が さんに成り代わり日記がつづられている。認知症を患っていた義母に同じ事をした経験のある私は、その日記を読んでいるうち目頭が熱くなってしまった。全国的に見ても自治体のグループホーム立ち上げはトランナー。10年近い歴史の中に利用者の半数位の人が住み続けられるという事実の裏側には、このような管理者や職員の涙ぐましいまでの思いや努力、それを支援する笠岡市、きのこエスポール病院等の力の結実と思われる。

介護の専門職ではない私が、自信のないまま外部評価を続けてきた。しかし、今回のこの訪問で、「私がかうあって欲しい」と提案してきたことを実現している現実を見て足場が固まったような気がした。

(1)利用者一人ひとりのバックグラウンドをしっかりと、丁寧に把握し、記録し、職員で共有できていること。
 (2)それに基づいたサービス計画が立てられ、なかでもメンタルケア(私の望み、願い、叶えて欲しいこと、家族からの希望)が重視されていること。
 (3)家族とのやりとりが綿密に、ありのまま記録されており、職員が全員状況を把握していること。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

今年度始めてグループホームの外部評価をしてきて、このホームに私自身が願ってきたことが集約されているように感じました。この高い水準のホームが1ユニットのまま推移するのはもったいない気がします。公営ホームとして2ユニット化して機能拡充を図り、グループホームモデルの新しい領域を開拓して欲しいものです。10周年記念プロジェクトとして、痴呆介護研修センターも含めて「G・H公園」といったゾーン構想などを夢見ています。

リビングや居室の改造の後で直ちには行かないかも知れないが、「中庭を一部テラス化して外気に触れ楽しむゾーンを創る」「居室で温水が使えるようにして欲しい」等願っています。

計画中の新聞はビデオや写真とまた違った記録となり、本人や家族の為だけでなく大切なメッセージとなると思います。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	岡山県の外部評価トライアルにこのホームが協力して評価試行で訪問したのが、平成15年7月。その時の利用者の状況や会話の内容も私は良く覚えていて さんも さんも殆んど様子が変わっていないのびつくりした。 さんは「以前と変わらず、いつも素敵なお洋服ですね」という話しかけに少女のような恥じらいの小ささで「ご冗談ばかり…」と一昨年聞いた身の上話が続き、 さんからも苦労話の復習をすることが出来た。このように一人ひとりの生活が大切にされ、その人らしさが失われず暮らしている利用者にとって、このホームのケアのあり方の凄さを知った。 連絡ノードに「居間、廊下を家庭的にしたいんですが考えてください」「…と思うんだけど、どうですか?」こんな問いかけや提案等が一杯見られた。ある一人の利用者の言動についても担当者だけでなく、多角的に職員全員の視点から捉えてみようとする。また、介護計画作成の為にもバイタル面も大切だが、その人の心の中に入り込んで、考えていこうとする。こういった姿勢や方針が、利用者一人ひとりの本来の人間性を発揮する環境を作り、自分が大切にされていると肌で感ずることができるのであろうと思う。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	平成17年度目標は「皆んなで笑顔溢れる炉端をつくらう」と管理者は話し、物置部屋にも貼ってある。そしてこの目標が具体的になるように「ホームを花いっぱい」と「出来る限り外に出掛けること」を掲げている。管理者はホームの歴史が長いから余計にマンネリ化を警戒し、研修やミーティングを重ね、外部の風も沢山入れ込もうとしているし、本人や家族の声にも耳を大きくして聞いている。更に若い職員の個性や感性を育み大切にしようとしている所が素晴らしい。「一昨年の訪問時よりホームが明るくなったかしら?」と感じるのは、一杯飾られた花のせいばかりではないようだ。「利用者の状態が悪くなっていて、しんとした空気になっているかも知れない」と予想していたのに。 リビングや居室改造をチャンスと捉えて2泊3日の温泉旅行に行ったと言う。利用者9人全員、職員7人全員それに一家族の参加で宴会二晩、風呂のはしご、倉敷美観地区散歩、イチゴ狩り、んびり昼寝グループも有りの「一大イベント」が出来た。この時の話をする職員も利用者も、それは嬉しそうな顔、顔。「難しいだろう」と予想できるこのようなイベントも職員や利用者、家族のチームワークの良さと乗り切り、更にチームワークをよりしっかりとしたものにも積み重ねている。家族との連携がしっかりとれており、何か問題が起きた時も家族と良く相談し、理解し、協力して貰っている。粘り強い話し合いで、より良いホームにして行こうとする職員の姿勢に家族も感謝していることと思う。		

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	ホーム開設より10年目を迎えて、当然一人ひとりの看取りまで考えていると管理者は言う。利用者の状況の変化に従ってリビングや居室を改造することに賛同する自治体の姿勢に、そして細やかな工夫や配慮で次々と起こる難題に対処していく職員のパワーに、家族の立場として頭が下がる。「この先どうなるんだらうか?」という本人や家族の不安がなくて良いということは、最高の「ついの住みか」となる。すべてのグループホームに期待する事は出来ないが、少しずつでも「ついの住みか」を目指すホームは増えて欲しい。 「職員同志の会話は注意して、「一日の生活リズム以外にある大切なもの、例えば花を見て美しいと感動したり、歌を歌ったり、傍らに寄り添って手を触ったりを大切に」「下剤を飲んだら今日も入浴しようよ。いくらか食事は遅くなるかも知れ無いかれど皆我慢してね、これらは一人ひとりを大切にしようとの理念に基づいている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	平成8年開設というのに、広くて物入れも沢山ある居室、自分用の洗面トイレ、庭に自由に入出入り出来る掃き出し、こういった将来を見通した生活空間づくりに改めて感動した。最近建てられたグループホームでも、なかなか見られない場づくりが出来ていると思う。一昨年訪問した時、「利用者の身体状況の変化によってリビングや居室の使い勝手に問題が出てきて」といったことも改善され、より良い生活の場となっている。共用の場も居室も飾り過ぎず、楽しめる眺めが嬉しい。一人ひとりの居室には、今まで見たどのホームよりも、その人らしさを感じさせ、担当職員の熱い思いが心に沁みだ。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		